



平成十七年度  
**消防職員初任教育(第五十九期) 修了式終える**  
**第一線で活躍される消防職員巣立つ**

平成十七年度の消防職員初任教育第五十九期修了式が九月十五日秋田県消防学校講堂に来賓、父兄を迎えて行われた。この初任教育の目的は、消防全般にわたる基礎的

知識と技術の習得、厳正な規律と気力並びに体力の錬成を図ることとしている。そのため座学、実科訓練、資格試験等を習得し、履修され無事終えた。

修了式には、西村哲男秋田県副知事のあいさつと来賓として参列された奥山利八秋田県消防協会副会長と藤枝禮助秋田県消防協会会長からあいさつがあった。千葉消防学校長からは優秀賞、努力賞、功労賞が贈られた。

- |       |                     |
|-------|---------------------|
| 優 秀 賞 | 秋田市消防本部 小山田 政尚      |
| 優 秀 賞 | 秋田市消防本部 小松 康治       |
| 努 力 賞 | 秋田市消防本部 櫛 引 周 作     |
| 努 力 賞 | 秋田市消防本部 長 岐 博 文     |
| 功 勞 賞 | 由利本荘市消防本部 土 田 和 幸   |
| 功 勞 賞 | 北秋田市消防本部 小宮 土 腰 耕 治 |



題 字  
 初代会長 松野 盛吉  
 定 価 1部 5円  
 (購読料は年会費を含む)  
 発行人  
 〒010-0001  
 秋田市中通4丁目3-23  
 秋 田 県 消 防 協 会  
 会 長 中 泉 松 之 助  
 電 話 018-832-3791  
 FAX 018-834-2706

印 刷  
 〒010-0951  
 秋田市山王7丁目5-29  
 株式会社 松原印刷社  
 電話 018-862-8760

平成十七年度全国統一防火標語  
**『あなたです 火のあるくらしの 見はり役』**

**消防学校を振り返って**  
 秋田市消防本部 小松 康治



四月にこの消防学校に入校してから約五ヶ月、まさに必死に毎日进行し、ついに卒業まで数日となりました。

入校した当初はこの学校での寮生活、座学及び訓練など、手探りの状態で行っていたため、毎日がプレッシャーで押しつぶされそうだったのを覚えています。

しかし、月日が経ち、少しずつ仲間とコミュニケーションがとれてくると、全てを一人で闘う必要はなく、協力して楽しみながら座学や訓練で結果を出していけばいいと考えられるようになりました。そのことを一番感じられた行事が秋大今日歩大会でした。

四十キロという距離は当然の事ながら走ったことはなく、そのきつさもわからずにスタートしました。大斗、櫛引、強史とベイスメーカーを交代しながら十キロ六十分のペースを順調に守り、三十キロまではさほど疲れを感じずに走れたのですが、土崎に入ってから急に足が痛み出し、呼吸が乱れ、いつリタイアしてもおかしくない状態になりました。その時、「四人で最後まで走り抜こう」と全員で力を合わせて走り続けたことが、団体二位という結果になって現れたと思います。

消防学校で学べたことは、「仲間と力を合わせて行動する」ということでした。組織で活動する消防という仕事において、仲間と良い関係を築き、それを力にするということがとても重要なことだと思います。それだけに、仲間と良い関係を作り上げることは難しいことであることもまた忘れてはいけないと思います。

初任教育を修了し、所属に帰ると多くの先輩達と良い関係を築かなければなりません。そのためには、自分ができることを全力で行い、常に努力し、思いやりや気配りの心を持ち続けることだと思います。難しいことですが、この消防学校で学んだことを生かせば必ず出来ると思っています。最後に、消防学校で出会えた全ての人に感謝します。ありがとうございます、消防学校。

地域の防災、災害対策に貢献！

**消 防**

ポンプ自動車  
小型ポンプ  
ホース

**設 備**

火災報知器  
スプリンクラー  
消火器

**猿田興業株式会社**

秋田市山王六丁目10番9号 TEL018 (863) 1551(代)  
 猿田興業ビル7F FAX018 (824) 3651

# 第四十二回秋田県消防操法大会

第十七回全国女性消防操法大会に出場する

北秋田市婦人消防隊が軽可搬ポンプ操法を披露

**優勝**  
**ポンプ車操法の部……大潟村消防団第三分団**  
**二ツ井町消防団第六分団**  
**能代市山本郡支部**

昨日の天気予報では雨降りであった、今朝は雨も上がり暑くも寒くもなく、照ることもない大会日よりの平成十七年九月五日、秋田県消防操法大会は由利本荘市岩城内道川の県消防学校放水訓練場で消防団員・女性消防隊の消防技術の向上と士気の高揚を図り、消防活動の充実強化に資することを目的に、昭和三十七年度から毎年行われている操法訓練、昭和四十六年度は諸般の事情により県大会はおこなうことができず支部大会に替えているが、そ

の年を除いても今年で第四十二回目を迎えた。平成の大合併により自治体数は六十九市町村から四十市町村に再編され、消防団の数が六十七団(平成十六年十月現在)から四十団(平成十七年九月一日現在)に見直され分団の再編が行われた中で市町村大会・支部大会等を経て選ばれた各消防団の分団が小型ポンプ操法とポンプ車操法の部に分かれて競った。その審査結果はつぎのとおりである。

第四十二回秋田県消防操法大会成績表 平成十七年九月五日 秋田県消防学校放水訓練場

ポンプ車操法		小型ポンプ操法		総 合	
出場 団 名	順位	出場 団 名	順位	出場 団 名	順位
小坂町消防団第四分団	3	小坂町消防団第四分団	5	鹿角 支部	4
大館市比内消防団第一分団	4	大館市比内消防団第六分団	2	大館北秋田支部	3
琴丘町消防団第一分団	2	二ツ井町消防団第六分団	1	能代市山本郡支部	1
大潟村消防団第三分団	1	大潟村消防団第一分団	4	男鹿南秋支部	2
秋田市消防団城東分団	6	秋田市消防団河辺第三分団	8	秋田市 支部	7
由利本荘市消防団島海支団第一分団	7	仁賀保地区消防団第七分団	7	本荘由利支部	6
		美郷町消防団第十分団	6	大仙市仙北郡支部	
		文字町消防団第三分団	3	横手市平鹿郡支部	
十文字町消防団第三分団	5	成瀬村消防団第二分団	9	湯沢市雄勝郡支部	5



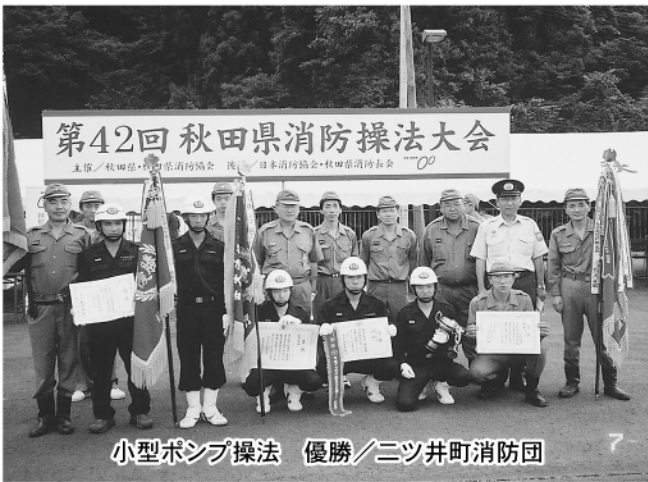


ポンプ車操法第一線

5・94



中泉秋田県消防協会長あいさつ



小型ポンプ操法 優勝/ニツ井町消防団

7



ポンプ車操法 優勝/大潟村消防団

7 5



軽可搬ポンプ操法披露/北秋田市婦人消防隊



総合優勝/能代市山本郡支部

7 5

トーハツ消防ポンプ  
 モリタ自動車ポンプ 総合防災設備センター  
 消防被服全般  
 秋田県代理店

## 株式会社 高義商会

(営業種目)

- トーハツ小型動力ポンプ
- モリタ自動車ポンプ
- ジェットホース
- 消防被服全般
- 火災報知器各種
- 消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32 Ⅸ(0183)(42)2125  
 〒019-0504 十文字町本町 Ⅸ(0182)(42)0032  
 〒012-0844 湯沢市田町 Ⅸ(0183)(73)2588

## 株式会社タカギ

秋田県横手市寿町1番28号  
 TEL (0182)(32)3880

(営業種目)

- |            |         |
|------------|---------|
| 日本機械自動車ポンプ | キンバイホース |
| トーハツポンプ    | シパウラポンプ |
| 各種消防機械器具   | 各種消火器   |
| 消防設備保守点検   |         |

# 防災の日になんで

秋田県消防協会 副会長 奥山 利八



九月一日、防災の日は、全国各県各地で総合防災訓練が実施されました。御承知のとおり、八十二年前の九月一日に発生した関東大地震により、十四万人の方が犠牲になった未曾有の大惨事が起因であります。

当県の総合防災訓練も快晴、残暑がきびしい中、大館市で開催されました。特に、長木川での水中の車輛から救助訓練は、人物自体での訓練であり、臨場感あふれる迫力を感じました。

九年ぶりで市内、隅無く見学し、いづこの地方都市中心街の変遷ぶりは、共通する深刻な大問題であることも痛感して来た次第です。又丁度市役所向かいのホテルから見える樹海ドームに初めて入館いたしました。緑の大地に銀白に輝く巨大な亀甲が突然出現した如く異彩を放つ風景は、大館市のもっとも印象的な景観でありました。今年には又阪神淡路大震災十年目にあたります。年初から災害について各報道機関も取り上げ、又発生した事故、災害、自然災害もその都度大きな面で報道されておりま



平成十七年度  
秋田県消防職・団員慰霊祭  
四十四柱の御霊にご冥福



特に、防災に日前後は集中的に大地震発生予想と被害予測又住民への目ごころの心構え非常用品の備え等々各層各種から盛り沢山の情報提供であります。いわゆる不測の事態の備え等として、非常用持出セットの広告、案内等がかなり目に付きました。

一百万位のセットの中身を数えて見ましたら三十一種ほどありました。只内容は必要性に疑問を感じる部品もあり、いかがしたものかと思つて居るところです。実は、昨年六月四日、象潟地震二百年記念講演会を象潟町で拝聴致しました。当地は全国的に知られた著名な景勝地でしたが隆起により一夜にして現在の地形となった象潟地震が発生した日です。

当時地域の受けた衝撃と被害は甚大でありました。今後の教訓として倒壊した家から救出のため「まさかり」と「のこぎり」を常備することを明記しております。(象潟町郷土資料館より)

時代の流れと社会形成の変遷の中で震災への備え方を単に比較することをどうかと思ひますが、当時は地域の中でお互いに助け合うことの備えであり、現在は個人自身

九月九日、秋田市千秋公園本丸の殉職消防職団員四十四柱の招魂碑の前で、佐々木事務局長の司会のもと、神官による修祓、招魂、献饌、のりと、祭主祭文、慰霊のこゝろ、メッセージのご紹介、玉虫奉奠、撤饌、送魂を執り行いました。  
来賓には、秋田県知事公室長竹村達三様、秋田県警察本部警務部長那須修様、陸上自衛隊第二十一普通科連隊長高木新二様、航空自衛隊秋田救難隊長江崎克憲様、秋田海上保安部長八木康夫様、秋田県市長会事務局長大山幹弥様等と遺族の皆様、秋田県知事の慰霊のこゝろをいただき、中泉秋田県消防協会会長より祭主祭文を述べられ、そし

がいかに生き延びるかに備えることの違いは読みとることが出来ます。現在の我々も地域社会の中で生活し、地域防災活動に災害に対処し相互連携を保ちながら地域を守らなければなりません。又往事とは想像もできない程、交通機関の発達により、地域間の交流に拡大するに併せ、我々個人の行動範囲、頻度も増加する一方です。日ごころの日常生活から旅装に託す機会も数多くなり、不案内な土地柄で不測の事態に遭遇する可能性の確立も高まることも考慮しながら自身を守る心構えと備えを怠ってはなりません。防災グッズ等移動する都度携行することも一案ですが荷物にならない自画事案を申し上げます。○・五のペットボトルと軍手と二点です。最小限携行品で瞬時に最も役に立つ備品であると思ひ、現に実行しております。又心掛け一つは宿の非常口、階段の確認です。出来れば階下まで降りてみることも消防に携わる者として責務であると思ひます。体験で申しますと十階で三分あれば普通の速度で階下まで降下できる事も確認しております。  
今年の県総合防災訓練に参列した所感等又防災の日になんで日ごころ災害と対峙している心境と心がけの一端を記したため次第です。  
平成十七年九月



念なことに招魂碑の隣接地にあつた社殿が今年一月九日に放火され焼失してしまひ復元造営事業に取り込もうとして居るところですと話された。

森田ポンプ	ラビットポンプ
桜ホース・ソフト吸管	消防被服一式
各種消火器	消防機器一式

株式会社 協 立  
株式会社 能代消防センター

〒016-0846 能代市栄町12の3  
TEL (0185) (52) 6361  
(52) 6494